

／時／

日本という国が無くなってしまった近未来。ベトナム中部の町にある小さな日本料理レストラン「フジサン食堂」。この町の郊外には日本人難民キャンプがある。登場人物は五人の旧日本人たちである。

／登場人物／

ユリカ 42歳。ベトナムに帰化した旧日本人。ベトナム人の夫とフジサン食堂を営んでいる。夫婦には一人の子供いる。

マサコ 42歳。日本人難民キャンプの第五ブロックの代表者。

コンドー 36歳。最近この町に移住してきた。こちらのコミュニティラジオ局から一枠買って「旧日本人移住者向けの番組」を作ろうとしている。

アイ 33歳。日本人キャンプを出て兄ジロウと共にこの町に住んでいる。フジサン食堂を時々手伝っている。

ジロウ 36歳 アイの兄。日本では歯科医であった。

／場所／

フジサン食堂の店内。は、さほど広くない。数組のテーブルと椅子。舞台の上手側は大きなガラス戸になっており、その向こうに庭がある。ガラス戸はだいたい開けてあつてそのまま庭に出ることができる。庭に出てガラス戸に沿って奥に歩くと、お客用のトイレや納戸がある。舞台の下手側（庭の反対側）が食堂の入口。舞台の正面奥にもれんで仕切られた入口があり、そこからキッチンや、ユリカたち家族の居住空間へ行くことができる。

／日付／

各シーンの日付は前シーンの経過時間は各シーンの冒頭で観客に明示される。

／ベトナム語／

劇中のベトナム語の台詞は、台本では便宜上日本語訳を併記する。上演に際してはその日本語訳が（字幕などで）観客に明示されることはない。

／開演前／

ベトナム語のラジオ放送が聞こえている。ベトナム語で歌われる曲と曲との間に時おり曲の紹介なのかDJのおしゃべりも聞こえる。歌のポリリズムが大きくなり、舞台が溶暗する。

七月二日。

開店前のフジサン食堂。庭の方から鳥の鳴く声が聞こえる。食堂の真ん中にテーブルが二つ寄せてくっつけられている。その上にはアプリコットの沢山入ったボウルがある。ボウルを囲んでアイ、コンドー、マサコが座っている。三人はアプリコットのヘタを竹串を使って取りながらおしゃべりをしてる。

コンドー ええ！…それってナンパってことですか？

マサコ (笑って頷いてから) ……すっごいハンサムよ。

アイ マサコさん見たことないじゃないですか。

マサコ ユリカさん言ってたもん。

アイ あの人もー…

マサコ 名前がね…。あ。「クエン」

アイ もー(と、恥ずかしがる)

コンドー え？「クエンさん」？

マサコ そう。クエンさん。

コンドー へー。で？つき合ってるんですか？

アイ ……

マサコ、コンドー ……きゃー(と喜ぶ)。

コンドー あーあ。いいなあ。私もナンパされたい。

マサコ ほんとよー。っていうかコンドーさんはまだ出会いがあるじゃない。

コンドー 出会い…、そうかな？

マサコ ほらそれこそその、ラジオ局の、言ってた。

コンドー ああ…。(笑)

マサコ ほらあ

コンドー あの人は、まあ、いい人ですけど。

マサコ 結婚してるの？

コンドー 知りませんよそんなの(笑)

マサコ なんで？

コンドー なんでって。別に(自分を示して) 只の利用者と、コミュニティーラジオの職員さんですから。

マサコ アイちゃんだってそうよ。

コンドー あそっか。

マサコ ねえ？お客さんと、(アイを示して) ウェイトレス。

アイ 「ウェイトレス」？(苦笑)

コンドー ふーん…

間。三人は手を動かしている。

アイ どれぐらいまで届くんですか、ラジオ？

コンドー …。市内と、その近辺。キャンプまでは届いてて、ね？  
 マサコ （頷く）ちゃんと聞いた。へーんな感じよ。ラジオから自分の声がするの。

三人は笑う。

マサコ でも、うん。いいな、…って言うかすごいなって思った。（間）キャンプの中と外が、繋がってるんだーって。うん。（間）無いからねまったく。

コンドー そう。…マサコさんでどれぐらいですか？

マサコ え？

コンドー キャンプの外に出られるの？

マサコ 私はブロックの代表者だって事で、月…、一、二回。

コンドー でしょ？

マサコ それ以上はちよつと無理かな。今日もあれだからね。これ「視察」だから（笑）

コンドー、アイ 「視察」？（笑）

マサコ そう。「旧日本人が切り盛りする日本食レストランの視察」

コンドー あー、なるほどお。

マサコ そういう「目的」をこう、まことしやかに、ちゃんと書いて。出して。

コンドー へー。

間。三人は手を動かしている。庭の方で鳥の声が少し大きくなる。より大きな鳥が飛来して小鳥が逃げて飛び立ったようだ。

アイ （庭の方を見て）あ。

コンドーとマサコも庭の方を見る。

コンドー わあー。

マサコ おつきいねー。

アイ 奇麗…渡り鳥かなあ…あんなの見ないですよ？

マサコ、コンドーうん…

アイ すごい、奇麗な緑…

コンドー 本当…

三人 あっ（等）

緑色の鳥が庭から飛び立った。

コンドー わあ…。よく来るのかなあ？

アイ 私は初めて見ました。

コンドー あそう…。

間。三人は又、手を動かす。

マサコ (へタをとるのがうまくいかないようだ) ああ。  
 アイ ダメですか？  
 マサコ これ、…難しい…。  
 コンドー あんまりほじくらない方がいいですよね？  
 マサコ 奥にいつちやうのよ…。  
 アイ これ、こうやって、串でへタをすつとさして…。 (へタが取れる)  
 マサコ、コンドー おお！  
 マサコ すごい上手！名人だ。名人がここにいた。

キッチンの奥の方でドタドタ、と階段を上がるような音がする。三人はそっちの方に注意を向ける。

マサコ お？  
 アイ ダイ君。  
 マサコ ああ。  
 コンドー ダイ君？  
 アイ ユリカさんの息子さんです。  
 コンドー へー。おいくつ？  
 アイ 九歳。もう超絶かわいいですよ。  
 コンドー へー。見てみたい。旦那さんも。  
 マサコ 食べに来たらいいじゃない。  
 コンドー あ。そうですね。  
 マサコ コンさんって、あの旦那さん。が、接客だから。  
 コンドー ユリカさんは？  
 マサコ 料理担当。  
 コンドー へー。じゃアイさんは？  
 アイ 私は時々です。  
 コンドー え？  
 アイ お店が忙しい時にお手伝いを。  
 コンドー へー。お料理？  
 アイ しないでしょしないで。できないです、そんな。  
 コンドー ふーん。ああ一度来よう。名前なんでしたっけ？  
 マサコ フジサン食堂。  
 コンドー フジサン食堂。

コンドーは店内を見回す。ユリカが玄関の方から部屋に戻ってくる。スマートフォンを片手に持っている。

ユリカ ごめーん。  
 マサコ 大丈夫？  
 ユリカ うん…

マサコ …じゃあなさそうね。

ユリカ うん…。ラムちゃん。

マサコ おお！ラムちゃん、どした？

ユリカ うん…。(アイ、コンドローに) コン君のお姉ちゃん。

アイ ああ。

マサコ え？何？

ユリカ うん、…。仕事がね。工場、クビになったんだって。

マサコ、アイ、コンドロー えー。

ユリカ うん。…。二十年勤めてたのに。

マサコ おお！

ユリカ かわいそうに…。

コンドロー 原因は？

ユリカ …その原因がわからなくて、急にクビにされたって。

マサコ、ユリカ、アイ えー！

コンドロー ひどい…

間。

マサコ (ため息をつき) …不景気なのかしらねえ。ジロウ君もねえ、ほら。

アイ いや兄の場合は景気がどうこうじゃないでしょうけど。

コンドロー え？お兄さん、クビになったの？

アイ クビ、というか、までもそちちゃんと契約をしてないと思うし…。

ユリカ そうなの？

マサコ いやそんなもんそんなもん。

コンドロー ですねえ。

マサコ カオバンも？

コンドロー いや向こうは、キャンプから出ていく人がそもそもいなくて、

マサコ へー。

ユリカ 周りが何も無いからね。

コンドロー ああ。

ユリカ 何もないって言ったなら怒られるけど、田んぼばかりだから。出ても仕事もないだろうし。

コンドロー そうなんです。

マサコ、アイ ふーん。

コンドロー じゃあ、お兄さん今全くの失業状態？

アイ あーいやいや。掛け持ちではやっているの。

コンドロー あーやっぱりそうですよねー。

アイ 自動車の解体工場をクビになったんですけど、市場のゴミの回収と、道路工事はまだ。

コンドロー そう…。お兄さんは日本で何されてたんですか？

アイ 兄は歯医者でした。

コンドロー へー。

マサコ すっごい手先器用。というか何でもできちゃうタイプ。

アイ そんなことないですよ。

マサコ そんなことあるよー。大工仕事も、機械の修理も、パソコンもできるし。だから、今またちよいちよいきャンプに来てもらって、お手伝いをしてもらって。…ありがとね。

アイ いえ私は。

マサコ …戻ってくるか？(冗談で)

コンドー え！？戻るんですか？

マサコ (首を振り)…無理無理。

コンドー ですよ？

マサコ ごめん冗談。

コンドー ああビックリした…

マサコ (アイとユリカに) コンドーさんもね、今、四つ掛け持ちしてるんだって。

ユリカ 「四つ」?!

マサコ そう

コンドー 恥ずかしながら

マサコ 「もう何時寝てるの？」っていう。死ぬよあんたって。

コンドー 死なないですよ(笑)

ユリカ うわー…

間。

マサコ あ、ていうか、はい。先生

ユリカ 「先生」って…

マサコ うまくとれません。

ユリカ あー。やっぱ熱れ過ぎだったかなあ…。もうポロって取れるんだけど…

マサコ へー。

ユリカ まあ…、良しとしましょう。

マサコ、アイ はい。

ユリカ じゃ次は、塩とお酒とクエン酸で、アプリコットを揉みます。

マサコ、アイ、コンドー はい。

一同、立ち上がって後ろのテーブルの方へ行く。テーブルの上に塩の入った容器と、クエン酸の入った容器と、お酒の入った計量カップが置いてある。

マサコ どっちがどっち？

ユリカ こっちがクエン酸。(とマサコに容器を渡す)

マサコ お！「クエンさん」は、そろもうアイちゃんよね。(とアイに渡す)

アイ …。

ユリカ (笑)…。これ塩。(と容器をコンドーに渡す)

コンドー あ、はい。(受け取る)

マサコ じゃ、お酒私でもいい？(と酒の計量カップを取る。)

ユリカ お願いします。

前のテーブルに戻ってきて、アプリコットの入ったボウルにそれぞれ塩とクエン酸とお酒を入れていく。

マサコ これ、計ってあるのよね？

ユリカ うん。50cc。クエン酸が30グラム、塩は180グラム。

コンドー、アイ はい。

ユリカ もっと少なくとも良いとは思うけどね…。

ボウルに材料を入れ終わって…。

マサコ …で、これを揉む？

ユリカ もうさつとの方がいいかもな。皮が破けやすいかも。

マサコ そおっとね。

コンドー うわー。これ怖いなー。

マサコ 毎年はもっと固いやつでやってるの？

ユリカ 毎年はやらない。

マサコ そうなんだ。

ユリカ うん。昔は店を出してたんだけど。

アイ へー。

コンドー (アプリコットをそろりと揉みながら) うわー、これホント怖いなあ…

マサコ アイちゃん大丈夫？ちゃんと「クエンさん」と混ぜってる？

アイ …

マサコ お酒の力を借りて「クエンさん」と一体になっちゃたりしてる？

アイ …

コンドー、ユリカ、マサコは笑う。

ユリカ …意地悪…

アイ わからないですからその、彼が、…。

マサコ なに？

アイ その。只の友達っていうか…。

マサコ んなこたあ、ないわよおー。(ユリカに) ねえ？

ユリカ なんで私に聞くのよ。

一同、笑う。

マサコ さあ、まあ勘弁してやるか。

ユリカ はいじゃあこれを、瓶に入れ替えまーす。

マサコ、アイ、コンドー はい。

マサコ わーい、わーい。

一同、ボウルの中のアプリコットを漬け物用の大きめの瓶に入れていく。

マサコ うわー。やっぱり大きいね。入る？

ユリカ 瓶まだあるから。無理に詰めない方がいいよ。

マサコ はい。

瓶に詰めていく。

コンドー わー。楽しい。楽しみー。

瓶に詰めていく。

コンドー カー、ムオイ？

ユリカ ああ。好き？

コンドー 大好きです。

ユリカ うまいよねえー。

マサコ 何？

コンドー 白い、ちっちゃいお茄子の漬け物。

マサコ あーあれね、はいはい。

アイ あ。

マサコ、コンドー、ユリカ え？（等）

アイ そうだそうだ。ユリカさん、ダイ君。

ユリカ ん？

アイ 帰って来ました。

ユリカ え、嘘？今サッカークラブのはずだけど…

アイ あでも足音がして。

ユリカ ほんと？あれなんでだろう？早く終わったのかな…

ユリカは瓶の蓋を閉めてふきんで手を拭いてから、店の奥へと消える。他の三人も全てのアプリコットを瓶に収めて蓋を閉める。

コンドー（机の上に置いて行かれたユリカのスマホの待ち受け画面を見て）お。…。この子だ。ダイ君。

アイ そうです。

コンドー わー美少年。

マサコ でしょ？

コンドー うーん…。クエンさん見たいです。

アイ ないです。

コンドー 嘘。

アイ 本当です。



コンドー 出しなさい。

アイ (笑) 電話持ってないです。

コンドー え?…あ、そうなんだ…

マサコ コンドーさん持ってるの?

コンドー あはい。(と、スマートフォンを取り出す)

マサコ おおー!それって契約を?

コンドー 違う違う。まさか。こつちの中古品。

マサコ ああ…え?どう?ちゃんと使える。

コンドー うん。あでも、キャンプでは難しい思うけど。

マサコ そうよね。もう、あれが弱くて。

コンドー Wi-Fi。

マサコ そう。ウチは本部と、あと各ブロックの集会所?に、そのアンテナが立って。

コンドー え!?すごい!ホントすごい。いやほんと全然違うんですね。

マサコ でもでも。ホントその周りだけで、しかももう、なんだろ?メールがかるうじて取れるとか、まあそんなことみたい。

コンドー 取り合いになってるのかな…。カオバンはそもそも電力不足で、Wi-Fiなんてそんなとでもとも。

マサコ へー。

コンドー ていうか、あれ?…マサコさんスマホって…?

マサコ 持って、…る、ん、だけど。あれはもうアルバムだから。

コンドー ああ…

マサコ 写真の。だから引き出しの奥にそつと大切にしまつてある。滅多に電源も入れない(苦笑)

コンドー えー!

マサコ いやもう怖くつて壊れるの。実際それで泣いてる人多くつて。家族の写真、日本の写真、無くなつちやつたつて。

コンドー うーん。

マサコ ほら三年でしょ?あれから。そろそろ壊れておかしくないし。

コンドー クラウドに上げればいいんですよ。

マサコ 詳しい人はさあ、そう言うけど。

コンドー いやみんなやつてますよ。

マサコ でも方が一消えないとは限らないんですよ?

コンドー そりゃ、まあ…ねえ…

アイ そうか。

マサコ、コンドー ん?

アイ クラウドには、まだ日本があるんですね。

長い間。

マサコ おお・・・(と笑い出す)

コンドー なんですか?

マサコ ちようどいい。雲の上に、日本があつて。

コンドー あー。

マサコ 人いっぱいだし。

コンドー うーん

マサコ そうかあー。とうちゃんかあちゃんねえちゃんは日本にいるのかー。ちょっと羨ましいなあ。

コンドー まさこさん(たしなめる口調で)

マサコ 嘘嘘、ごめんごめん。

コンドー もー…。ああ。て言うか。

マサコ はい。

コンドー 私とのメールは何でやってるんですか？

マサコ 本部のパソコン。

コンドー え？パソコンあるんですか？！

マサコ 一台だけ？

コンドー うわ。じゃ取り合いですよ？

マサコ そこはブロック代表者の特権を使ってだな。

コンドー うわー…

マサコ ふっふっふ…

ユリカが戻ってくる。

マサコ (ダイ君は) …どう？

ユリカ あー。ちよっと体調が悪くて帰ってきたみたい

マサコ ありやりや

アイ 大丈夫ですか？

ユリカ うん。大したこと無い。ずる休みかも

アイ え？

ユリカ うん。…で、さてさて。

マサコ 瓶に入りました。

ユリカ はい。じゃあ本日はお疲れさまでしたー。

一同 お疲れさまでしたー(拍手)

マサコ (アプリコットの入った瓶を持ち上げて見ながら) いいわねー。

ユリカ …いやーホント言うとなあ…

マサコ 何？

ユリカ 本当の本当を言うと、赤シソを入れたい。

コンドー、マサコ、アイ あー…

ユリカ でも手に入らない。

マサコ どうしても？

ユリカ どうしても。調べたけどいろいろ。

マサコ へー。残念…。色ってやつぱりね。

ユリカ ねえ。

マサコ …まあ。でも無いものはしょうがないし。

ユリカ、コンドー

うん。

アイは机の上のボウル等を片付け始める。

ユリカ ありがと。流しに入れといて。

アイ はい。(と行ってボウルを持って奥の台所へ。)

マサコ じゃあこれで漬けといて、干すのは?…一ヶ月後?一ヶ月半?

ユリカ 天気次第かな。

コンドー あー、雨期ですか?

ユリカ それは大丈夫です。

マサコ 大体九月ぐらいからかな。

コンドー ああ!じゃあ逆ですね完全に。

マサコ そうなの?

コンドー ええ。カオバンはちょうど今頃?五月から九月ぐらいまでが雨期です。

マサコ へー。

ユリカ 南北に長いからね。また南の方だと全然違つてて。

マサコ へー。

コンドー どこで干すんですか。

ユリカ、マサコ ここ

マサコ でいい?

ユリカ 勿論。

マサコ ありがとう。

アイ うち、干すところないですし。(奥から再び出て来て奥のテーブル上の塩、クエン酸などをまとめている。再び奥へと消える。シンクから洗う物をする水の音)

コンドー そうよね。私もそうです。

ユリカ コンドーさん、今どちらにお住まいですか?

コンドー すぐそこです。通りはさんで、えー(と指差す)

ユリカ 西?

コンドー 西。ですか。海と反対側。ですよ?

ユリカ うん。

コンドー に。ツーブロックほど行った所に、

ユリカ あー!最近なんか日本人の

コンドー そう。それです。

ユリカ ねえ(?)

コンドー そうそう。そうなんです。

ユリカ 結構、住んでるって。

コンドー 「リトルキョート」

ユリカ え?リトル?

コンドー 「キョート」

ユリカ 京都なの?

コンドー はい。

アイが濡れたふきんを持って奥から出てくる。奥のテーブルから拭いていく。

マサコ 「スズキさん」って、知らないよね？

ユリカ ……多分。

マサコ この二月にキャンプから出て行かれた、あの男の人で。

ユリカ うん。

コンドール そのスズキさんの知り合いとか、コネクションが中心になってあの辺りに日本人が集まってきた。で、スズキさんが京都出身ってだけなんですけど。

ユリカ へー。

コンドール スズキさんとはネット上で知り合って、で、仲良くなって。私がキャンプ出たいんだって話をしたら、その身元引き受けの番号を紹介してくれたりして。

ユリカ ふーん。

コンドール で、今、母と一緒に居候なんです。しばらくならいいよって。

ユリカ あ。お母さんと。

コンドール はい。

マサコ ホント良かったよねえ…。最初がすごくすごく大変だって言うからね。

ユリカ 最初？

マサコ いやアイちゃんともそうだったと思うけど…。とにかく仕事を探すのね、でも住所が無いとちゃんと雇ってもらえなくて。で、じゃあ住む部屋を探そうとすると「仕事もしてないやつに貸せない」って

ユリカ うわー。

マサコ もう落語だって。だから…（コンドールに）ねえ。…（ユリカに向かって）そういうさ。キャンプの外の実際のこととか。そういう情報のね交換っていうか…

コンドール （ユリカに向かって）そうなんです。…その、インターネットは確かにすごい。でも…やっぱ、「声」ってすごい直接的だと思うんです。「ここにも日本人が居るよって」いう、その声をね、ラジオでお願い…できないですか？

ユリカ いや私はホント無理。

コンドール うー

ユリカ 私ベトナム人だし。

コンドール いや、その…。そりゃそういう意味では、日本人なんてもういないわけですから日本って国がないんだし。だから「旧日本人」ですよ。（ユリカに）「旧日本人」でしょ？

ユリカ ええ。まあ。

コンドール いやもう本当に簡単なインタビューっていうか。

ユリカ 嫌です。

コンドール うう…

マサコ いいと思うけどなあ。このアプリコット干しとか。こっちの食材で作れる日本食とかさ。

コンドール ああ…マサコさん！

マサコ ん？

コンドール 天才！それいい！

マサコ でしょ。

コンドー それすごいいい！だからラジオクッキングですよ！  
マサコ おお！いいじゃない。レギュラーで。（とユリカに）

ユリカ だから

マサコ あ。じゃあラジオドラマも！ねえ？

コンドー …。「ラジオドラマ」？

マサコ ラジオで、連続小説みたいな。

コンドー、ユリカ …？

コンドーとユリカは話がわからず、マサコを見ている。マサコはアイに視線を送る。コンドー、ユリカはアイを見る。

アイ …

ユリカ え？

マサコ 小説家。

ユリカ、コンドー … ええー！

アイ 違います！

マサコ だって

アイ 違います。

ユリカ うそ！

アイ 違いますって！ちよつとマサコさん！

マサコ だって。

アイ （ユリカ、コンドーに）違います、誤解してるんです。その…

マサコ 書いてたんでしょ？

アイ 書いてましたけど。

ユリカ、コンドー … おお！

アイ 違う。その、趣味で。全然その

マサコ 賞もとったんでしょ？

ユリカ、コンドー … おお！

アイ アマチュアの。アマチュアのその賞はもらいましたけど

ユリカ … すごい！

アイ いや…

ユリカ … なんで隠してんのそんなこと。

アイ いや、今はもう書いてないですから。

ユリカ … えー？そうなの？書けばいいのに。

アイ …

ユリカ … 書きなよ小説。私アイちゃんの小説読みたい。ねえ？

アイ … そういう。気にはならないです。

間

マサコ … わかった。（間）わかったわかったわかつちやつちやつた。

ユリカ …。何？

14

間

マサコ 私たちみんなで考えましようよ。(間) ラジオ番組。

アイ、ユリカ え？

マサコ 素敵で、皆の為になつて、私たちも楽しくなるような、そんな番組。ニュー、レイディオ、プログラム！ね！

ユリカ いや、

マサコ だってコンドーさんこんなに一人でがんばつててき。そのコンセプトはすごく素晴らしいと思うの。キャンプの中と外を繋ぐつて。思わない？

ユリカ、アイ …

コンドー マサコさん！…ありがとうございます。(泣き出して涙声になる) …私、…心細くつて…。あり、…

ありがとうございます。(うつむく)

マサコ いいのいいの…。困った時は助け合ひよ。ねえ？

コンドーは肩を揺らして泣いている。マサコは顔を少ししかめるようにして、アイとユリカの顔を見る。二人もそれ以上「いやだ」とは言えない…

ベトナム語のラジオ放送の音が聞こえてきて大きくなる。

七月十六日。前のシーンから二週間後。  
ほとんど変わらないレイアウトの食堂でジロウとユリカがシソを塩で揉んでいる。庭の方、少し離れた所から洗濯機の回る音

ユリカ　コン君はその、すごく好きなの。日本でいう国が。

ジロウ　ああ。

ユリカ　その、ベタにアニメ、ゲームから入って、で。「日本食」なるほど。

ユリカ　からの、「お弁当」

ジロウ　へー！

ユリカ　お弁当にハマっちゃって。あの小さい中に彩りとか。だけじゃなくて、栄養のバランスもとか。

ジロウ　なるほど。

ユリカ　もう「アートだ」みたいになっちゃって（笑）

ジロウ　（笑）

ユリカ　そう。だから日本がまず好きで、日本に渡って来て、で会社にたまたま私がいて。捕まっちゃった。

ジロウ　「捕まった」って…（笑）…へー。（間）結婚は日本でされて？

ユリカ　そう。でもすぐにこっち移って…、丸八年か。

ジロウ　おお…。（間）国籍変えるって言ってその、…ユリカさんのご家族は

ユリカ　私、家族がいないの。

ジロウ　（間）あ。すいません。

ユリカ　ううん。母親が早くに離婚して、早くに死んじゃったってだけだから。

ジロウ　…。

ユリカ　ジロウさんみたいな兄が居たら…（間）うざい。

二人笑う。

ジロウ　ひどいなあ…

ユリカ　妹のことが気になってしょうがないんだね。

ジロウ　まあ…。（間）僕らは最初台湾に避難して…（間）それで例の、日本人キャンプに放火された事件で父と母が死んで。

ユリカ　うん。聞いた。

ジロウ　それから兄妹二人なんで。（間）気になりますね、正直。

ユリカ　（笑）…だよねえ。

ジロウ　いやその「クエンさん」？と、どうなるのかっていうのはそれこそわかんないですけど。でも、ね。この先、いつかこっちの人と結婚するってことがあるかもしれないし。

ユリカ　ジロウ君もね。

ジロウ　うん。そうですね。そう。その…（間）うん…。

間。

ユリカ 結婚するってなったら、帰化も随分簡単だと思うしね。

ジロウ (間) そうなんですよ。ただこっちの国籍が欲しいが為に、その…。(間) ねえ。そういうんじゃないと思うし…。

ユリカ うん。

ジロウ (間) ま、とはいえ。…どこかで生きていかなきゃならなくて…

間。ジロウが大きいため息をつく。二人は笑い合う。

ユリカ ちょうど一年ぐらい？キャンプ出て。

ジロウ そうですね。(間) うん。でも未だに良かったのかどうかって、その…。僕はなるべく早くキャンプから出て、「生活」をしようって思ってた。でも…。

ユリカ …

ジロウ キャンプ出てしばらく、あいつ部屋から一步も出られなくなって。両親が死んだ時もそうだったんですけど。精神的にちよつと弱い所があつて。…いやだからほんと感謝してます。

ユリカ ン？

ジロウ あいつここで使ってもらって。

ユリカ いやいや。

ジロウ いやほんとに。(手に持ったシソの固まりを見せて) これ「感謝のしるし」です。

二人笑う。

ジロウ (手を見て) あー、真っ赤。

ユリカ こりや染まるよ。まさか手に入るとは…。

ジロウ (笑) まさかマボロシの食材だったとは…

ユリカ よろしくお伝えください。

ジロウ はい。

ユリカ あ。でもし可能なら。

ジロウ はい。

ユリカ 種をもらえたら。

ジロウ ああ。

ユリカ そう。うち庭で育てられるから。

ジロウ ああ。そうですね。

ユリカ そうなの。いやーもう是非育てたい。柴漬けを作りたい。

ジロウ うわー！それはいいですねー！柴漬け。

ユリカ 柴漬けよ

ジロウ うわー…。いやメールします。

ユリカ (笑) ありがとう。いやほんとグッジョブ！

ジロウ (笑)



ユリカ あ。そうだ。仕事は？  
 ジロウ あ！それがおかげさまで。  
 ユリカ おお。  
 ジロウ はい。あの港の、魚とか貝とか加工する工場です、市場の隣に併設されてる。  
 ユリカ え？

間。

ジロウ あ、ご存知ですか？  
 ユリカ ああうん。知り合いが…

間。

ジロウ はい。  
 ユリカ 勤めてた。  
 ジロウ ああ、「た」か。残念。  
 ユリカ うん…。今日は？  
 ジロウ 今日は、朝行ったら、今日は仕事無いって。  
 ユリカ おう。あ、そういう感じなの？  
 ジロウ どうでしょう…。まだわからないですね。  
 ユリカ …

興奮気味のアイと、ブカブカの「シャツ（ユリカの夫コン君のものだろう）を着たマサコが庭の方から戻ってくる。シソの赤い汁が服に付いてしまったのだろう。

アイ ユリカさん、いたいた！  
 ユリカ え？  
 アイ あの緑の鳥！庭に、今二羽。  
 ユリカ へー。あ。名前まだ聞いてないわ。  
 アイ 近くで見たらすごいきれいでしたよ。  
 ユリカ そう。  
 ジロウ 落ちそうですか？  
 マサコ うん。多分。  
 ユリカ ごめんねー。エプロンすれば良かったね。  
 マサコ いや私がどんくさいのよ。

一同笑う。

「ごん」と皆の頭上で音がした。一階の天井、二階の床。

マサコ ダイ君？  
 ユリカ うん…。

マサコ 夏休みか。

ユリカ そう。

アイ めずらしい。いつも外で友達と遊ぶのに…。

ユリカ …。

アイ 勉強？

ユリカ まさか。

一同笑う。

ユリカ じゃあじゃあこれを、分けましょうか？

アイ、マサコ はい。

ユリカ コンドーさんもだよね？

マサコ うん。

アイ 遅いですね。

マサコ うん。ちよつと心配になるよねあの人。がんばりすぎるから。

ジロウ 連絡つかないんですか？

マサコ 今は。スマホ持つてるけどメールだけだから。

ジロウ あ。三ッコ、乞食だ。

ユリカ なにそれ？

ジロウ 多分僕と一緒にです。ホテルとか飲食店とか三ッコ飛んでる所の、店に入るお金はないから、その店の前で、ただで電波拾って、メール受信して。

ユリカ へー…。

ジロウ 煙たがられますけどね、「しっし」って（動物を追い払うような仕草）

ユリカ うわあ（苦笑）…。まあ、とりあえず分けますか？…（マサコに）あの後、作ったのよね？

マサコ うん。この瓶、三つ。

ユリカ、アイ おー、

ユリカ じゃあ。半分マサコさんにして、残ったのを三等分。…と（とシソを分けていく）

マサコ ごめんねなんか。私だけ。

ユリカ いやいや（笑）…で、これ入れよっか（とビニール袋をさす）

ジロウ はい

ユリカとジロウでわけたシソを袋に入れる。

ユリカ で、この一山を、（ユリカの分の一山を掴んでアプリコットをつけている瓶の蓋を開け）

上からどぼつと。（とシソを瓶に入れる）

マサコ、アイ、ジロウ おー。

ユリカ ちよつとならして、で、（蓋を閉めて）これで一ヶ月ぐらい。

マサコ、アイ、ジロウ おー。（拍手）

一同拍手。玄関の方からコンドーの声が聞こえる。

コンドール（声） こんにちは。

マサコ あ！来た来た。

ユリカ どうぞ。

コンドール（声） 失礼しまーす。

間。コンドールは現れない。一同顔を見合わせる。ジロウが玄関の方へ向かう。

ジロウ（声） お！

アイ、マサコ、ユリカは腰を上げる。ややあつてコンドールとジロウが入場してくる。コンドールは左手に杖をつき、右足首辺りに包帯を巻き、右腕を首にかけて三角巾で吊っている。

マサコ あー…。

コンドール いやー…参った…。

マサコがコンドールを支えて椅子に座らせる。

マサコ だから言ったじゃないの…

コンドール ね。マサコさんが正しかった。

マサコ どこでどうなったの？

コンドール あのー…。工場で。めまいがして。それはもうずっとしてて、でもあれ？今日ちょっとひどいなーって思ってたなら、階段を踏み外しちゃって。

アイ、マサコ うわー…

ユリカ 病院は？

コンドール（笑） いやいやいや…

ユリカ 病院行きな。お金出すから私。

コンドール いや最近ダメなんです本当。

ユリカ なにが？

コンドール 日本人が。旧日本人が。

ユリカ 嘘？

コンドール 保険が無いからすごい金額になってそれで踏み倒しちゃうから、もう…「お断り」っていうか。

ユリカ、マサコ ええ？！

ジロウ 増えてきましたね。

ユリカ そうなの？本当に？

ジロウ はい。

マサコ（コンドールに）でもあなた。…それ、骨は？

コンドール いや、まあ…どうかなあ…昨日より腫れも引いて来てるし…痛みも、うん…（と立ち、片足に体重をかけてみると痛んでバランスを崩しよろける）

ユリカ もう大丈夫？（とコンドールを支えようと近づく）

ジロウ ユリカさん！

ユリカのシソの色に染まった手が、コンドローの白い服に触る直前で止まる。

ユリカ やべー、セーフ。

コンドロー おお！シソ？

ユリカ そう。…（ジロウに）洗おうか、手？

ジロウ はい。

ユリカとジロウはキッチンの方へ姿を消す。流しの方から水を出す音が聞こえる。

コンドロー これは塩で揉んだの？

アイ （間）…。アク抜きだそうです。

コンドロー へー。

アイ 泡がぶくぶく出て来て。

マサコ ちよつとあなた本当に大丈夫なの？

コンドロー ごめんさいね。体は大丈夫なだけで。

マサコ 体が大丈夫じゃないでしょ。

コンドロー 仕事が。

間。

コンドロー 工場も病院の清掃もみんなアウト。

間。

コンドロー ま。これも神様の思し召しだと思って。

マサコ そうよ。

コンドロー 体を動かせないこの間に、ラジオのことをがつつりやっついこうと思って。

マサコ、アイ …

コンドロー 私もう、今それだけが生き甲斐なんです。

間。ジロウとユリカが戻ってくる。

コンドロー じゃ。やりますか？

ユリカ え？

コンドロー 会議ですよ会議。ラジオの企画会議。

ユリカ、マサコ ああ…

コンドロー （ユリカに）机寄せさせてもらっていいですか？

ユリカ あ、どうぞ。

コンドロー じゃあごめんなさい（マサコらにお願いする）

マサコ ああ、はいはい。

マサコとジロー。ユリカとアイがペアになって机を移動させ全部を固めて島を作っていく。

マサコ ジロウ君も本当に気をつけてね。

ジロウ はい。

コンドー ああ。お兄さん？

ジロウ はい。ご挨拶遅れました。アイの兄のジロウです。

コンドー 初めまして、コンドーです。

ジロウ 初めまして。

コンドー ジロウさん。一緒にどうですか？

ジロウ え？

コンドー この後、時間は？

ジロウ …、今日はあと夜勤で、それまでは。

コンドー ならぜひ！一緒に。（皆に）ほら男性の意見も貴重でしょ？私たち全員女だし。ね？

アイ、マサコ、ユリカはため息をつく。

ユリカ お茶でいい？

アイ あ私が。

マサコ あごめんね。ありがとう。

アイはキッチンへお茶を取りにひっこむ。残りは島になった机の周りに座る。

コンドー じゃあ早速。…まず「内容」ですね。やっぱりメインはインタビューって考えてます。それぞれがんばってる旧日本人の声を届ける。で、その他に「こんなのがいいんじゃないか」っていうアイデアを出したいと思っています。

長い間。

ジロウ はい。（手を挙げる）

コンドー はい。

ジロウ そのラジオ番組（？）

コンドー はい。

ジロウ は。何時からの放送ですか？

コンドー 今は、水曜日の三時からと土曜日の一時から。三十分間です。

ジロウ 昼ですよ？

コンドー そうです。どうして？

ジロウ いや僕、ラジオって言えば深夜のイメージがあつて。

コンドー ああ。

ジロウ 例えば、ああいうリスナーの人からメッセージを募集するとか。

コンドー ああいいですね。

ジロウ 人生相談とか。

マサコ あ、あれは？川柳？

ジロウ ああ！

コンドー 日本っばい！いい！募集して、優秀賞を決める。

ジロウ いいですね。

マサコ キャンプでよくやるの。あのね、去年の大賞が、…えー…

アイがお盆にお茶の入ったコップを載せて戻ってくる

アイ 一昨年のは覚えてますよ。

ユリカ ありがとう。

マサコ なんだっけ？

アイ 「無くなつて 初めて気づく 愛国心」

一同 おおー！！

コンドー なるほどー。

アイも座る。一同、お茶を飲みながらしばらく黙って指を折り川柳を考える。

コンドー ま、これ一旦置いといて、他には？

アイ はい。

コンドー どうぞ。

アイ 「いつまでも あると思うな シソとクニ」

マサコ、ユリカ、ジロウ おー！（拍手する）

コンドー いや、あの…

コンドー以外の四人は又指折り考える。

コンドー 川柳以外で。

一同 ああ…

マサコ はい。

コンドー マサコさん。

マサコ あのインタビューさ。基本、今の話だったじゃない？

コンドー はい。

マサコ その日本に居た頃の話。思い出とか。それも良くないかなって。

コンドー なるほど…

マサコ 例えば…コンドーさん出身地は？

コンドー 滋賀です。

マサコ なら琵琶湖の風景のこととか。

コンドー ああ

ジロウ それ、旧滋賀県民が聞いてたら「うおー」ってなるでしょうね。

マサコ でしょ？

コンドー そうかそうか…。じゃマサコさんは？

マサコ 私は、ま、十月。「神存月」。

コンドー ああ島根！

マサコ うん。ベタな所では。

コンドー アイちゃんジロウさんは？

ジロウ ウチはなんだろ？（とアイの方を見て）お好み焼き？

アイ （笑）

コンドー あ。大阪の人？

ジロウ いいえ！広島です！「広島焼き」って言うじゃないですか？あれは「お好み焼き」なんです。

コンドー なるほど…

アイ 折り鶴とか

コンドー 折り鶴？

マサコ （笑いながら）そう。折り鶴募金の時ね…

コンドー 折り鶴募金って？

マサコ あの…。赤い羽募金みたいなことで、キャンプに募金してくれた人に渡すの。その折り鶴をおるのに、広島部隊が大活躍。

ユリカ なんて？

マサコ 早いしきれい。折るのが。そして絶対に知ってる折り方を。

アイ 学校のホームルームで毎日折るんです。八月が近くなると。

ユリカ、コンドー はー。

ユリカ なるほどね。

アイ ユリカさんは？

ユリカ わたし？は…（間）あ。「無尽」って知らないよね？

全員知らない。首を振る。

ユリカ そうなのよね。「無尽」って、その…互助会なんだけど。

ジロウ 互助会？

ユリカ 例えば私たち（周りの人を指差し数えて）1、2、3、4、5人。この5人がその無尽を始めるとするじゃない。で、だいたい月に一回ぐらい集まるの。で、その時に。一人一万円ずつ。例えば出して、そうするとここに五万円のお金ができるじゃない？

ジロウ はい。

ユリカ この五万円を五人の誰かがもらうの。

マサコ え？何？それはジャンケンとか？

アイ ギャンブルですか？

ユリカ じゃなくて。例えば一月から始めて、じゃ一月は集めた五万円を私がもらって、二月はまたみんな出した五万円をアイちゃんがもらって、三月はジロウさん、四月は、五月はま  
マサコ あ、全員が。

ユリカ そう。一周回って終わり。

コンドー ん？それって…誰も…

ユリカ 得も損しない。

ジロウ あーそうか。

コンドー、マサコ え？

ジロウ まとまったお金が必要な時に、仲間内で融通し合うことで、利子が掛からないんだ。

コンドー ああ…

ユリカ まあ実態は、飲み会サークルってことなんだけど。

ジロウ へー。「ムジン」？

ユリカ 無尽。

ジロウ えー？どこですか？

ユリカ 私、山梨。

コンドー 山梨…、

ユリカ で、ところがね。ベトナムにもこれ、一緒のがあったの。

ユリカ以外 へー！

ユリカ そう。今はもうすっかりやる人が少なくなったらしいんだけど、昔はみんなやってたのよ。つて。コン君のお母さんが言ってた。

ユリカ以外 へー。

コンドー あ。

一同 ん？

コンドー 山梨で、だから「フジサン食堂」。

ユリカ (笑) …それもある。

マサコ ふーん。いろいろあるね地域によって。

ジロウ キャンプでもブロックによって雰囲気違いますもんね。

マサコ、コンドー そうそう。

マサコ ウチは第四ブロックが関西で、だから、ね。あいつらホント…

一同笑う。

ジロウ ああ、第四ブロックなら、芸人さん。ラジオ番組をやっていたお笑い芸人とかいるかもしれないですよ。

マサコ いないいない。芸能人はハワイよ。

一同笑う。

ユリカ 別荘とか持ってた人はね。

コンドー お隣の国にも、超有名人、いますよね。

ユリカ ?隣…。ああ。タイ？

マサコ 天皇陛下？

コンドー そう。

ユリカ 隣じゃないよ。

コンドー あそっか。

マサコ あれでも本当はどうなんだろうね？



ジロウ オランダにいらつしやるとかベルギーとかいろいろ話がありますね。  
コンドー え？居ないの？

ジロウ はつきりしないです。多分、わざと。

ユリカ なんて？

ジロウ ……旧日本人が、集まって来ちゃったら困るからでしょう。

ユリカ ああ…。

マサコ ……部屋の中に天皇陛下の写真飾ってる人、すごく多い。

ユリカ そうなんだ？

コンドー カオバンは、もう堂々と集会所に飾ってましたよ。

マサコ、ユリカ えー！

ジロウ はー。そういう噂は聞いてましたけど。

コンドー 噂？

ジロウ キャンプ内で日本円が使えるとか

コンドー (笑) それは嘘。

ジロウ (笑) ですよね。

コンドー いやま、みんな大事に持つてるけどね。日本円。

マサコ そうそう、パスポートとかも。捨てられなくて。

ジロウ ……。天皇陛下の写真と同じで、お守りと言うか、…違うな…

アイ 形見じゃないかな？

間。

アイ 日本の形見。

間。

ユリカ アイちゃん。

アイ はい。

ユリカ あなたやっぱり小説書きな。

アイ え？

マサコ アイちゃんちよつとまじめな話。書いて。書かなきゃ。

アイ あの私、

マサコ この先ね。日本語は、無くなっていくの。だから、アイちゃんみたいに使える人は、今の  
ウチにすっかり使った方がいいよ。

間。

マサコ 「もったいない」

一同笑う。

ジロウ *lãng phí* 【「無駄な」】  
 一同 うーん (など苦笑)  
 コンドー *quá tốt* 【「良すぎる」】  
 一同 あー。  
 ジロウ そっこの意味もね。  
 ユリカ でもぴったり来るのはホントない。  
 コンドー 難しー…  
 ジロウ *Chúng tôi thường nói tiếng Việt. Bởi vì tôi không thể nói tiếng Việt*  
*Nên tôi không thể làm công việc* 【「私たちは普段ベトナム語を話します。ベトナム語を話せないと仕事をさせてもらえませんから」】  
 コンドー *Xin hãy nói chậm.* 【「おっ少くおっ少くしゃべってくださう。」】

一同笑う。

ジロウ (ゆっくりとコンドーに…) *Chúng tôi thường nói tiếng Việt.* 【「私たちは普段ベトナム語を話します。」】 (普通のスピードに戻してユリカに) *Sự phát âm của tôi có sai không?*

【「僕、発音がおかしいですか？」】

ユリカ *Không. Nó phù hợp. Tôi nghĩ bạn giỏi hơn tôi*

【「いいえ。合ってる。上手だと思う、私よりも」】

ジロウ *Cảm ơn bạn* 【「ありがとう」】

コンドー *tôi muốn nói rành tiếng việt* 【「私もベトナム語、うまくなりたいです」】

ユリカ *Hãy cố lên. Nhưng mà không sao. Hãy diễn đạt nó bằng mọi cách*

【「がんばって。でも大丈夫。何言ってるかはわかるわよ」】

コンドー キャンプを出る面接の時にね。面接官があきれちゃって。「そのレベルで本当に出っていく気か？」みたいな。

ジロウ それでもパスできたんですか？

コンドー やっぱりカオバンって緩いみたい。

ジロウ ふーん。

コンドー 身元引き受け人も書類だけだし。

マサコ それはウチもそうよ。でも、ねえ…

コンドー ん？

ジロウ 最近ちよっと、変な人も入り込んでるみたいで。

コンドー 「変な人」？

ジロウ すごい高い手数料をとったり。

コンドー、ユリカ え！

コンドー 手数料って？

ジロウ 貴金属。無い人は後払いでいいって言って、「住む所もあるから」って。

コンドー うん。

ジロウ で、キャンプから出て行って見たら、住み込みで強制労働みたいなの？

コンドー …、ひどいっ！ (と、興奮して体を動かし拍子に激痛が走る) あぐっ！ (と肩を押さえ

てうづくまる。その拍子に机に立てかけていた杖が床に倒れる)

ユリカ 大丈夫？

マサコ ちよつと…。

マサコとユリカは顔を見合わせる。

マサコ コンドーさん。キャンプ行こう。

コンドー え？

マサコ ドクターに診てもらおう。今から帰ったらまだ居ると思うの。

ユリカ そうしな。

コンドー でも

マサコ なんとかする。大丈夫、私に任せて。

コンドー イヤでも…

マサコ 大丈夫。ね。行こう。

ユリカ うん。

マサコ (時計を見て) バスは…。ああ、間に合うかも。

ジロウ 鞆持ちます。

マサコ 鞆私持つ。ちよつと支えてあげてくれる？

ジロウ はい。

コンドー すいませーん…

マサコ ゆっくりでいいよ。(ユリカに) ごめんね。

ユリカ いいえ。

ジロウは杖を持ち、コンドーに肩を貸して椅子から立ち上がらせる。

コンドー あっ。

ジロウ 大丈夫？痛い？

コンドー いや。そうじゃなくて。…そうよ！キャンプですよマサコさん！

マサコ え？何？

コンドー アナウンサーとか、ラジオ局で勤めてた人って…

マサコ ……(間) いるわ。

コンドー ですよ？

マサコ そりゃ絶対いるよ、探せば！

コンドー その人たちにうまく関わってもらえたら…

マサコ わーなんで気がつかないんだろう…

コンドー ねえ！もしかしたら、キャンプ発信の番組だってできるかも！

マサコ すごーい！

コンドー (ジロウの手から杖を奪って) マサコさん。早く帰りましょう。

マサコ …うん。そうね。

コンドー それじゃあ、すいません皆さん。失礼します。

ユリカ …お大事に。

ジロウに支えられてコンドーが退場。マサコは荷物をまとめる。

ユリカ (笑) …変な人

マサコ アイちゃんは？

アイ 今日、お手伝いの日なんです。

マサコ ああそうなんだ。

アイ あ。洗濯物、もう取り入れちゃいますね。

ユリカ あ。うん。ありがとう。

アイは庭の方へ姿を消す。

マサコ えー、次は？一ヶ月後？

ユリカ 干すから天気次第ね。また連絡取り合って。

マサコ 了解。

間。

マサコ あ、これ(☹シャツ)借りてきます。

ユリカ …どうぞ…。

マサコ …。あの…。

ユリカ 何？

マサコ ダイ君、大丈夫？

間。

ユリカ …この一週間ほど、部屋に籠っちゃってて。

マサコ …。あー…

ユリカ サッカークラブをやめて来ちゃって、それからちよつと様子がおかしかったんだけど…

マサコ …

ユリカ いじめ、…かも、しれなくって。

間。

マサコ 原因はその…。日本人とのハーフだから？

ユリカ …(黙って大きくクビをひねって)…。いや、どうかなあ…。

マサコ (間) コンさんなんて？

ユリカ ちよつと様子を見ようって。学校始まったら、また戻るかもしれないし。って。

マサコ そうね…

ユリカ …

マサコがユリカに近づき両手を広げる。ユリカとマサコはハグをする。

ユリカ ありがとう。

マサコ うん。(間) じゃあね。

マサコは二人分の鞆を持って出ていく。物思いに耽るユリカ。間。庭から洗濯物(ナフキンやランチョンマット)が沢山入ったカゴを抱えてアイが戻ってくる。カゴの中身を机の上にひっくり返し、アイとユリカは椅子に座ってそれをたたんでいく。しばしの無言の後…

アイ ユリカさん。

ユリカ うん？

アイ 前に言ってもらった浴衣って、

ユリカ おお。

アイ やっぱりお借りできますか？

ユリカ どうぞどうぞ。え？どうしたの？

アイ いや…

ユリカ 嫌がってたのに…

アイ …

ユリカ あ！クエンさん？

アイ (恥ずかしそうに黙って頷く)

ユリカ (声を潜めて) 浴衣姿見たいって？

アイ (恥ずかしそうに黙って頷く)

ユリカ かぁー

ユリカは恥ずかしそうに嬉しそうに身をよじる。アイは顔を下に向けている。

ユリカ オッケー。おそらく実家に行ってるのよね。また取ってくるわ。

アイ ありがとうございます。

ユリカ いえいえ。

間。ユリカはアイを見てにやにやする。アイは恥ずかしそうに俯き加減。二人はリネン類をたたんでいく。

ベトナム語ラジオの音が聞こえてきて大きくなる。いつもより少しノイズが混じっている。

「ガシャーン」とガラスの割れる音。

八月十四日。前のシーンから約一ヶ月後。食堂には誰もいない。玄関の方からジロウの音がする。

ジロウ(声) おはようございませす。

しばらくしてからジロウとアイが玄関の方から姿を現す。肩からさげた鞆にはアプリコット干しをつけた瓶が入っている。ジロウは新聞紙を一枚つまんで持っている。

ジロウ おはようございませす。

間。庭の方からユリカの声

ユリカ(声) はいー。

庭の方からユリカが入ってくる。

ジロウ おはようございませす。

アイ おはようございませす。

ユリカ おはよ。

ジロウ ごめんなさい。早く来すぎちゃって。

ユリカ ううん。

ジロウ あれ：（と玄関の方、ドアの上の辺りに目をやる。ドアの上のはめ殺しのガラスが割れているのだ）

ユリカ そうなの。朝方「ガシャーン」って音がして。下りてみたら割れてて。

アイ わぁ。

ユリカ 鳥がぶつかったみたい。下に誰もいなかったから良かったけど。

ジロウ 鳥。

アイ あの緑のやつですか？

ユリカ あ：うん。そう。

アイ …。死んじゃったんですか？

ユリカ うん。…。とりあえず新聞紙張って塞いで。

ジロウ （つまんでいた新聞紙を見せる）

ユリカ あ。

ジロウ、ユリカは苦笑する。

ジロウ 板、ないですか？

ユリカ あー。

ジロウ あったら僕やりますよ。

ユリカ　ほんと？それ助かるな。板か…板、板

ユリカ庭の方へ行く。ジロウは鞆と新聞紙を机の上に置いてユリカについて去る。アイは少し呆然とした様子で立ったまま。

ユリカ(声)　大工道具がねえ…

ジロウ(声)　あ、やります。…よいしょ

物置の立て付けの悪い戸をガラガラつと開ける音がする。

ユリカ(声)　ありがと。ここに…

ジロウ(声)　お！これとかちようどいいんじゃないですか？

ユリカ(声)　あ、ほんと。で…釘がね…

ゴソゴソと道具や板を物色する音。

アイ　ユリカさん。

引き続きゴソゴソと物音

アイ　(さっきより大きい声で) ユリカさん！

ユリカ(声)　…ん？

間。

ジロウ(声)　探します。

ユリカ(声)　ごめんね。

ユリカ、食堂に戻ってくる。

ユリカ　何？

アイ　鳥は？

間。

ユリカ　ん？

アイ　…

ユリカ　ああ。埋めてあげた。

アイ　…。ありがとうございます。

ユリカ　…。いいえ。…

間。

ユリカ 浴衣。

アイ え？

ユリカ 取ってきた。

アイ あ。：ありがとうございます。

ユリカ 着てみる？

アイ え？今？

ユリカ うん。だって、まだ四十分五十分あるでしょ？

アイ じゃあ、はい。ぜひ。

ユリカ よし。(外に向かって) ジロウさん。ちょっとアイちゃん借りるね。

ジロウ え？あ、はい。

ユリカはアイをつれて店の奥へ退場。

間。

ジロウが板と金槌と釘の入った道具箱を持って戻ってくる。食堂を見回してから、玄関の方へ去る。玄関で、これまた早く来たマサコ、コンドールと鉢合わせしたようだ。

ジロウ、マサコ、コンドール(声) おお！

マサコ(声) 早く来すぎたねって言い合ってたのに。

コンドール(声) なにこれ？

ジロウ(声) 鳥がぶつかっただんですって。

コンドール(声) え？怪我は？

ジロウ(声) は、大丈夫みたい。

コンドール(声) あ良かった。

マサコ(声) 手伝おうか？

ジロウ(声) 大丈夫です。一人で。

マサコ(声) そう。

ジロウ(声) どうぞどうぞ。

マサコ(声) はい。失礼します。

コンドール(声) アイちゃんも？

ジロウ(声) はい。あ、今ユリカさんと奥でなんか。

コンドール(声) なんか？

マサコ(声) おはよー。

と言いながらマサコとコンドールが食堂の中に入ってくる。コンドールはもう杖をついていないが、手首にはまだ少し包帯を巻いている。マサコはリュックサックを担いでいる。

コンドール お邪魔します。

マサコ 何してるのかしら？



二人は荷物の中からアプリコット干しの瓶を出して机の上に並べていく。玄関の方からはト  
ンカンと釘で板を打ち付ける音が断続的に聞こえてくる。二人は椅子に座って互いの瓶を見比べる。

コンドー これ私のおんまり染まってる気がしなくって。

マサコ 量が足りなかったかなあ。

コンドー でも干したら少し赤くなりますよね？

マサコ 日に焼けて？

コンドー うん。晴れるかな？二、三日？

マサコ って言ってたね。間に合った。

コンドー え？

マサコ キャンプの三周年イベント

コンドー あそうだそうだ。来週？

マサコ そう。

コンドー あれなんですよね。外の人にオープンするんですよね。

マサコ そうなの。今年から。ようやく許可が出て。

コンドー すごい。すごい良いことだと思う。

マサコ 普段、外で売ってもらってるメイドインキャンプの商品を、中で販売したりとか。

コンドー ああの万華鏡とか折り鶴とか？

マサコ そう…。いやほんと微々たるものでも、それで少しはキャンプの中の人にお金が渡り始め

てるから。

コンドー 素晴らしい。

マサコ でももうちょっとなんか商品開発しないと…。

コンドー 新商品？…なんでしょうね…カゴとか？

マサコ カゴは無理。こっちのがハイクオリティーだから。

コンドー そっか…

マサコ だから「実用」よりも「日本っぽさ」で勝負なのよね…

コンドー ふーん…

二人はぼんやりと考える。コンドーが何気なく机の上のジロウが置いた新聞紙を手元に引き寄せ黙  
って読み始める。マサコは横からその記事を覗く。

マサコ あ。この前の？

コンドー …うん…。

マサコ …。全部読める？

コンドー (苦笑し) 全部は無理です。…ま、批判的な論調…かな？多分。

マサコ ふーん。

コンドー あ「差別的なデモ」って書いてありますね。

マサコ そう…。スズキさんたちは？

コンドー いや…。あれ以来おかしな感じですね。

マサコ どんな感じ？

コンドー いや、もう「自警団を作る」って

マサコ 自警団？！

コンドー でしょ？そんなことしたら余計に、ねえ。またデモとか。嫌がらせとか増えると思うんですよ。

マサコ 絶対そうよ。

コンドー キャンプの方もですよ？

マサコ うん。柵の周りの看板に落書きされて。

コンドー 「出て行け！」って？

マサコ そう…。

コンドー うわー…。私たちはともかくキャンプの方は…。

マサコ いや私にはある意味あの柵に守られてるから。外の人が大変よ。

コンドー いやいや。外は環境がどんどん良くなってるんです。日本人が働ける所が増えてきて、求人も実際働いている人の数も増えてきて。で、それが反感を買ってるから。

マサコ 一部の人にね。多くの人はそんな

コンドー 好意的です。本当に。だってだから仕事増えてるんですもん。

マサコ うん。

コンドー 評判いいんですよ私たち。礼儀正しいし、仕事丁寧だし。…そう。工場に戻ったら日本人が増えてて。

マサコ おお…。

コンドー 仕事終わりで、ミーティングするんです、私ら日本人で。もうちよつとああした方がいい、こうした方がいいって(笑)

マサコ (苦笑して) 「カイゼン」？

コンドー だって雑なんですよもんこっちの人。そのくせ終業時刻がきたらいくら中途半端でもパツと帰っちゃうし。私たちは「キリのいい所まで」とか思うから…：やっぱり日本人のそういう

「工夫する知恵」とか。技術とか知識とかって、なんだかんだ言っすぎてすいんですよ。

マサコ …うん…

コンドー これからも世界のいろんな所で日本人は必要とされると思う。活躍すると思う。

マサコ …。

コンドー …。思いたい、だけですかね？

マサコ いや。…(間) 私も日本人はこれからも世界で重宝とされると思う。でも、それは高い技術とか知識がどうっていうよりは、「優良な労働力」としてじゃないかな。世界でも稀な。

コンドー …

マサコ その「日本人のすごさ」って…、一番は「同調圧力」。

コンドー 「同調、圧力」？

マサコ 「シンクロ率の高さ」って言ったらいかな…。みんながやってて自分がやってないとものがすごく不安で、で、みんなで一緒にやると「うおー！」ってもうミラクルな力が湧き出ちゃう。そうやって戦争もして。負けちゃったけど、また日本人全員で一緒に「うおー」って馬車馬みたいに、自分たちの健康も家庭も顧みずに、みんなで狂ったように働いて。

だから「焼け野原」から「豊かな国」にまでなれた…。日本人が取り立てて手先が器用なわけでもないし。取り立てて頭がいいわけでも力が強いわけでもない。ただ日本人は、「みんなで一斉に無理する」のよ。

コンドー …。それって、…。ダメなことですか？

マサコ さあ?…(間)ま、それにほら、そういう「国民性」?…「日本人らしき」なんて

物も、溶けてなくなっていくだろうし。

コンドー そうかな、そうなのかな?

マサコ ユダヤ人みたいにはいかんでしょう。

コンドー 宗教がないから?でも、

ジロウが道具箱を持って戻ってくる。

コンドー おつかれさまー。

ジロウ はい。(マサコたちの瓶を見て)お。順調ですか?

コンドー うーん。どうなんだろう?

マサコ ジロウ君たちのはこれ?

ジロウ はい。

ジロウ一旦、庭の方に去って道具を元の物置にしまう。

マサコ 見ていい?

ジロウ(声) どうぞー。

マサコ、ジロウの鞆から瓶を取り出す。

コンドー、マサコ おー!

ジロウ、戻ってくる。

ジロウ (コンドーの手の包帯を見て)あ。コンドーさん、手、まだ?

コンドー いや。ちよっと肩をかばってたから今度は手首が。

ジロウ ああ。

コンドー でも。足も肩ももう。うん。

マサコ でもめまいはするんでしょ。

ジロウ えー。ずっとですか?

コンドー ずっとっていうか、…うん、まあ断続的に。

ジロウ それは怖いですよ。

マサコ あ!そうそう!それ言わなきゃ。

コンドー はい?

マサコ 例の件。

コンドー 無尽?

マサコ うん。なんとかかなりそう。

コンドー 本当に?本当に?

マサコ うん。

コンドー あーもー…(感激して半べそをかいている)…ありがとう。

ジロウ ムジンってこの前ユリカさんが言ってた？

マサコ そう。コンドーさん、やっぱり検査した方がいいと思って。だって脳のことだった怖いじゃない。

ジロウ あ、そのお金を？

マサコ そう。私の知ってる人たちに声をかけたら十人ほど集まって

ジロウ おお。

マサコ 今、いつから始めるか調整中。

ジロウ おお！

コンドー ありがとうございます。

マサコ あのでもやっぱり、一番最初にコンドーさんがもらうっていうのは

コンドー いやそんなそんな

マサコ うん。でも。私が一番目にもらうっていうのは、まあそれならってみんな言ってくれてて。

で、そこから先？は、私とコンドーさん個人的な貸し借りとして、私に集まった皆のお金を、コンドーさんに貸して。で、ま何番目になるかわからないけど、コンドーさんがもらった時に返してもらおうってことで。

コンドー いいんですか？

マサコ そうしよ。

コンドー ほんと、ありがとうございます。他の人たちによろしく言ってください。

マサコ うん。

ジロウ いやこれすごいいですよ。だって中の人にとっても、キャンプを出るって決断をした時は、まとまったお金が必要になるから。家を借りるにしても食いつなぐにしても。

ジロウ そうなのよね。うん。

コンドー ジロウさんたちはお金どうされたんですか？

間。

コンドー あ、ごめんなさい。

ジロウ いや、：

ジロウは言いよどむ。間。マサコはちらっと目線を交わしてから。

ジロウ キャンプで隣に住んでた老夫婦と懇意にさせてもらって。なんかもう家族みたいに…(間)  
タケダさんっていうんですけど、

間。

ジロウ 心中自殺しちゃって。

間。

ジロウ 遺書を書かれてたんです。指輪とネックレスを僕らに譲るって。そんなの見たことも無か

たったんだけど、部屋の隅っこに隠してあって。結構な大きさのダイヤモンドがついた：

コンドー　　ハー…

ジロウ　　で、それを…

マサコ　　うん。タケダさん喜んでるよ。

ジロウ　　…

マサコ　　一番有意義な使い方なもの。

ジロウ　　…。

店の奥への通路、のれんの向こうからユリカの声がする。

ユリカ（声）　　ジャジャーン！

という声とともにユリカが、浴衣を着たアイと戻ってくる。間。の後。

マサコ、コンドー　　おおおお！

コンドー　　かあわいいっ！！

ユリカ　　へーん。どう？ウチの看板娘。

マサコ　　素敵！

アイ　　ありがとうございます。

マサコ　　なにそれ！？どうしたの？

ユリカ　　随分前にお客さんからもらったの。どうしてもアイちゃんに着て欲しくって。

マサコ　　いやいいなあ。浴衣いいなあ。…やっぱ作るかなあ…

ユリカ　　作る？

マサコ　　メイドインキャンプで作ったら売れるんじゃないかって。

ユリカ、コンドー　　あー！

ユリカ　　それいいんじゃない？

マサコ　　うーん。

四人はアイの浴衣姿を見ている。

ユリカ　　あ、お兄ちゃん黙っちゃった。

ジロウ　　え？いやいやあの…。アプリコットですよね？

一同　　（笑）

ユリカ　　話、そらしたなー。

ジロウ　　さてさて。干しますか？（アプリコットの瓶を指し）

一同　　（笑）はーい。

一同、瓶の中を覗き込む。

ユリカ　　えーとちょっと待って（と何かを取りに店の奥へ去る）

マサコ アイちゃんあんたダメよ、汚れるから。

アイ えー。じゃ着替えてきます。

マサコ いやいやせっかく着たんだから。

アイ でもやりたいですもん。(と店の奥へ退場していく)

マサコ ちよっと。：あー。照れちゃって。

一同 (笑)

ユリカ (アイと入れ違いに菜箸を持って入ってくる) じゃあお庭に干しましょう。

アイ(声) ああ。じゃあ、鳥のお墓、気をつけないと。

コンドー 鳥の、：ああぶつかった鳥?

ユリカ うん。でも奥の方に埋めたから大丈夫よ。

マサコ 深く掘った?

ユリカ え?

マサコ 野良犬とか野良猫とか多いでしょ。

ユリカ うん。大丈夫。

一同、庭に目をやる。

マサコ (苦笑しながら) キャンプで、最初の頃あったからね。野良犬。

一同 ええ：(等)

マサコ 朝方、向こうのほうから野良犬が歩いてきて、なんか啜えてるなと思ったら、

ユリカ ワアちよつとやめてよ!

マサコ だってどれぐらい掘ればいいかとかき、わかんないじゃん誰も。

コンドー そう。

ユリカ ワーオ：

ジロウ ベトナムは土葬ですもんね?

ユリカ そうそう。お墓多いでしょ? 一人に一つずつだから。家族じゃなくて。

一同 あー。

ジロウ 洗骨するんですよね?

コンドー 「センコツ」?

ジロウ 埋めた何年かあとで掘り起こして骨を奇麗にする。

コンドー ああ。

ユリカ そう。そういう風に私も聞いてたんだけど。でも。こっちでできた知り合い誰に聞いても

「そんなことしないよ」って。

一同 へー!

ユリカ わかんない。だから少数民族多いからね。どっかでそりややってておかしくないけど。勿

論コン君ちもしないし。

ジロウ 火葬はないんですか?

ユリカ あー。それこそホーチミンとかの大都會では、あるの、かなあ：。わかんない。

マサコ タケダさん、ずつと言ってたのよね。

ジロウ :はい。

コンドー 何をですか?

マサコ 焼いて欲しいなあって。埋められてこの土に帰るんじゃないで、灰にして海に流

して欲しいなあって。

ジロウ (不意に思い出し笑いをして) いやあのひどいんですよ。父と母の話をしたら。「そりや良かった」って。

マサコ えええ

ジロウ 「焼かれて死んだら本望だろう」って。(苦笑)

マサコ うー。ひどいー…(苦笑)

間。

ユリカ …干す？

ジロウ 干す？ああ、ミイラみたいに？

コンドー ちゃんと塩漬けにしとかないと鳥とか虫に食べられますよ。

ユリカ 鳥に食べられるなら良くない？ほら鳥葬ってあるじゃない？

マサコ (笑)…アイちゃんは無理ね。

アイ どうして？

マサコ クエンさんと一体になってるから。

一同笑う。

ユリカ じゃあ、えーと、干す為に、ザルに並べます。

ジロウ、マサコ、コンドー(拍手)

ユリカ が、汁が垂れるので、もう瓶のまま庭に運んで、庭でザルに並べましょう。

ジロウ、マサコ、コンドー はい。

コンドー ザルは？

ユリカ もう用意してる。庭に。

コンドー ああありがとうございます。

マサコ ダイ君は？

ユリカ え？

マサコ いる？なら一緒にどう？

ユリカ …。あー…。いや。もういいって言うと思う。

マサコ そっか。

ユリカ じゃあ、あ、一膳じゃ足りない。これ(とマサコに菜箸を渡す)先に行つてて。

コンドー、マサコ はい。

ジロウ、コンドー、マサコはそれぞれ瓶を持って立ち上がる。ユリカは店の奥の方へ。

ジロウ いやほんと晴れて良かったですね。

マサコ ほんと。「アプリコット干し日和」？

コンドー あ、これ干した後、番組会議。

ジロウ え？あラジオの？

マサコ　そうそう。ジロウ君あのね。

コンドー　ねえ。

マサコ　すごい人が居たの。

ジロウ　え？芸能人ですか…

マサコ　うーんどうでしょう…

等と言いながら三人は庭の方へ退場する。店の奥からユリカが菜箸を探して食器棚を探る音がする。

アイ(声)　これ、どうたためばいいですか？

ユリカ(声)　うん。まあ適当でいいよ。

アイとユリカは食堂に入ってくる。ユリカはトンブ、お玉、菜箸を持っている。アイは机の上で浴衣をたたみ始める。

ユリカ　うん。そんなんで。

アイ　ユリカさん。借りて帰っても…？

ユリカ　勿論。え？いつお披露目？

アイ　明後日か明々後日に、会えるって言ってたから。

ユリカ　おー…。

アイ　なんか…

ユリカ　ん？

アイ　(間) 大切な話があるって。

ユリカ　え！？(声を潜めて) 「大切な話」？

アイ　(頷く)

ユリカ　クエンさんが？！

アイ　(頷く)

ユリカ　ちよつとそれ…、風雲急を告げたなあ…。それで浴衣着て？キヤー。小説か！

アイ　(笑) …。でも。ちよつと書きたくなってきて。

ユリカ　え？

アイ　小説、書ける気がして。

ユリカ　…。

アイ　読んでくれますか？

ユリカ　…。勿論。

庭の方から「わあ！」とマサコたちの驚いたような声が聞こえる。

ユリカ　ちよ、大丈夫？

ユリカとアイも庭の方へ走り去る。

ラジオの音が聞こえ始める。ノイズが大きくよく聞き取れない。アナウンサーが緊張したような声で何かを言っているのが所々聞こえる。やがてそのラジオのノイズは雨の音に変わっていく。



庭の方からアプリコット干しの乗ったザルを抱えたマサコが急いで入ってくる。カゴを部屋の隅の机の上に置き、また庭へ出ていく。雨は次第に強くなる。

八月十七日。前のシーンから三日後。

残りのザルを取り入れて戻ってきたマサコ。ザルを机の上におくと、疲れた様子でどっかりと椅子に座る。机に肘をつけて思いに耽る。玄関の方で誰かがやってきた物音がする。

コンドー（声） こんにちは

マサコは気がつかない。

コンドー（声） こんにちは

と言いながら、足下の濡れたコンドーが傘をたたんで入ってくる。

コンドー あ。

マサコ うん。

コンドー どうでした？

マサコ え？（間） ああうん、間一髪セーフ

コンドー え？

マサコ え？

コンドー あ、アプリコット…

マサコ あ、そう。

コンドー うん。よかった。

マサコ うん。

コンドー 鍵あいてたんですか？

マサコ ダイ君が

コンドー あそうか…。

間。

コンドー 今、アイちゃんは…？

マサコ キャンプに

コンドー うん。

マサコ 連れて帰ってきて。

コンドー ジロウさんが？

マサコ うん。でそのまま、スズキさんとキャンプの他の男の人たちと一緒に。

コンドー ええ？

マサコ そう。

コンドー 連絡取れないんですね。

マサコ (首を振る) …。引き止められたら良かったんだけど、私がINCRの職員の所に行

ってる間に、パーっと行っちゃって。

コンドー 町に…来てるってことですよね。

マサコ …。それ以外に考えられないし。…もー。バカなことにならなきゃいいけど…

間。

コンドー 大丈夫じゃないですか？

マサコ …

コンドー だって。クエンさんの家とか、その、連絡先とかわからないでしょ？

マサコ うん。…だからもう…。何考えてんだか…。(間) わかんない。日本語話せるのにね？もう何言っても通じないの。

間。

コンドー 私は。

マサコ ？

コンドー わかります。

マサコ …

コンドー その、気持ちは。気持ちだけですけど。

マサコ …。

長い間。

コンドー あ。…そう、こんな時にアレだけど…

コンドー はポーチから少し厚みのある封筒を取り出す。

マサコ ああ。

コンドー お金。また今度にしたほうがいいですよ？

マサコ ううん、ううん。大丈夫よ。じゃあ確かに。(封筒を受け取り、鞆にしまう)

コンドー ありがとうございます。本当にありがとう。

マサコ いいえ。で、えーと…。そう、帳面が今無いんだけど。

コンドー うん。

マサコ その帳面にちゃんと書いて。それみんなに確かめてもらって、で。そのあと全部まとめてお渡しします。

コンドー ありがとうございます。

マサコ 今夜、は、ねえ。このバタバタが無かったら今夜でもできたんだけど

コンドー いやいやいや。

マサコ またなるべく急いで、うん。

コンドー うん。本当にありがとうございます。

マサコ いえいえ。：すごいわね。大金持ち。

コンドー (笑) すごいです。：マサコさん

マサコ え？

コンドー マサコさんがすごいです。

マサコ 私がすごい何？太り過ぎ？

コンドー (笑) じゃなくて。みんなに頼りにされて。キャンプの中だけじゃなくて外の人も、こつ

ちの人ともちゃんと繋がりがあって、

マサコ (首を振る)

コンドー 今回の騒ぎだって、一番に動いてるし。

マサコ いやそれは、ま立場上さあ。

コンドー いやいやいや。ご謙遜を

マサコ いやいやいやいや。

二人は笑う。

コンドー 私：

間

コンドー カオバンキャンプで、そういうまとめ役じゃないけど、そのやってたんです。いろいろ考  
えて良かれと思って、提案したり自分で動いたりしてたんです。(間) でもその…。ちょ  
つともう、疎ましがられて。

間。

コンドー 居られなくなっちゃったんです。揉めてしまつて。

マサコ それでこっちに？

コンドー そう。だから：(マサコを見て) すごいなーと。

マサコ それはまあ、合う合わないって話よ。

コンドー いや、なんか人の、人間の器の話だと思う。

マサコ 器って言うのは体型のことかしら？

コンドー (笑)

マサコ 結局、私が太り過ぎって言いたいわけね。

コンドー 違う

二人はまた笑いあう。

コンドー アプリコット干しどころじゃなくなりましたね。

マサコ そうねえ…。でももうこれオツケイじゃない？一昨日でしょ？昨日、今日、

コンドー あ。じゃあ完成か。

マサコ 完成よ。完成。やったー。

コンドー わし。

間。のあと二人は自嘲気味にため息をつく。  
ガタン、と玄関の方で音がする。そちらを見る二人。ずぶ濡れのジロウが入ってくる。

マサコ ジロウ君

ジロウ ユリカさんいますか？

マサコ いない。

ジロウ …。そうですか。

マサコ 他の人は？

ジロウ 表に居ます。

マサコ とりあえず。キャンプに戻ろう？ね。

ジロウ …

デモ隊のシュプレヒコールが聞こえてくる。

**Hãy nói lại theo người nhật 【「日本人を、追い返せ」】**

ジロウ 「日本人を、追い返せ」

マサコ キャンプから日本人の男たちが、この町に向かってやってくるって。もう噂になってるのよ。みんな怖がってるってユリカさんが。

ジロウ …

マサコ この町を守れて、通りの向こうでヒノマルの旗燃やして大声あげてるわ。結局ああいう連中に、火に油を注いでるんじゃない。わかるでしょ？

ジロウ …

コンドー でも。だから我慢しろってことですか？

マサコ …

コンドー 妹がレイプされても？

マサコ …。だからそれは。(間)でも、警察にね。だって、

ジロウ 行きました。(間)今。行ってきました。

間

ジロウ 入れてもらえませんでした。建物の中に。表に担当だって言う刑事さん、なんですかね？  
が出て来て、クエンさんから事情を聞いた。そう言う事実はない。

コンドー …。そんな…

ジロウ アイを連れてこいと。そうしたら事情は聞いてやるって。

コンドー …アイちゃんは？

マサコ …無理よ。

コンドー だって、このまま

マサコ 無理だって。

コンドー 泣き寝入りですか？

マサコ …。えーと。その。今の。彼女の。コンディションとして。無理。その…。誰かに 45

何かを落ち着いて話せるような状態じゃなくて。

ジロウ 発狂したんです。

マサコ ジロウ君！

一時的なものかはわかりませんが。

マサコ 今ちよつと本当に、パニックと言うかショック状態なのよ。

ジロウ (間) もともとあいつ、ベトナム語全然だから。(間) まして自分が襲われたなんて話を、

刑事に向かって説明するなんか、…

マサコ だからさ。今じゃないって。それはちゃんとやろう。本当に。そんなのおかしいもん。で

もさ。今無理だから。だって無理じゃない。だから。とりあえず今日は帰ろう。

ジロウ …

マサコ ジロウ君が言ったら、他のみんなも帰るでしょ？とりあえず一旦キャンプ戻って、考えよ？

どうしたら一番いいのか？勿論泣き寝入りなんて絶対しない。で、その為にどういう方法

が一番いいのか。ちよつと頭冷やして、その私も一緒に。考えよ？ね。

同。 玄関の方から音がする。一同そちらを見る。ポンチョを着たユリカが戻ってくる。しばし無言の一

マサコ おかえり

ユリカ ただ/いま

ジロウ どこへ行ってたんですか？

ユリカ …

ジロウ クエンさんの所ですか？

ユリカ …

ジロウ 彼と話をさせてもらえませんか？

ユリカ …。(首を横に振る)

間

ユリカ 常連さんから、なんとか辿って。クエンさんの連絡先を聞いて。連絡して。結局。インタ

ーフォン越しに。少しお話させてもらって。

間

ユリカ クエンさんは。そう言うことはしてないって。そのクエンさんの友達だとか。大勢でだと

か。そう言うことは、ないって。

間

ユリカ 彼は。(間) 別れ話を。したんだと。彼はそれで帰って、その後アイちゃんがどうなった

のかはわからないけれど。…

長い間

ジロウ アイが嘘をついているってことですよね。

間

ジロウ そういう風に彼は言っているってことですよね？  
ユリカ そうね、そう。

長い間

ユリカ 私は。

長い間

ユリカ わからない。  
ジロウ アイが嘘をついているってことですよね。  
マサコ ジロウ君。

ジロウ アイが、…（感情の濁流と言葉を飲み込む）  
マサコ とにかく。一度帰ろう。  
コンドー ちよつと…。でもわからない私。

マサコ うん。あの。そうだけど、でもさ  
コンドー なんで？なんでですか？傷つけられた女性がいて、ひどい目に合った女性がいて、それが  
マサコ 旧日本人だろうが、なんだろうが、…。だって知り合いの女性じゃないですか。

マサコ 違うよ。違う、その。日本人だからとか、女性だからとか、そう言うことじゃなくて、  
ジロウ アイという人間が、信用できないってことですか？  
マサコ 違うわよ！そうじゃないわよ！もー…

間

ジロウ クエンさんと直接話せる場所を作ってもらえませんか？  
ユリカ （首を振る）

間

ジロウ 僕らが信用できないってことですよね。  
マサコ ちよつとジロウ君  
ユリカ そうね。

間

間

ユリカ *Bởi vì nó không phải là một con vẹt* 【「鳥じゃないかぶ。」】…(間)鳥じゃないから。

間。

ユリカ 玄関、ドアの上のガラス割られたの。石を投げ込まれたのよ、こんな。(と両手でソフトボールぐらいの大きさを作る)違うわよ。違うのよ私たち。日本人じゃないのに。もしよ？もしその時ダイがその下にいたら、…。

間

ユリカ キャンプの三周年イベントとか、日本語のラジオを作るだとか。こっちの人からしたら怖いよ。不気味だよ。だって何言ってるかわかんないんだよ言葉。仕事もどんどん取られるし。

ジロウ だから我慢しろと。

間

ジロウ 妹がレイプ／されても

ユリカ 落ち着いて。

間。再びデモ隊のコールが聞こえてくる。

マサコ 居場所が必要なのよ。私たちには戻る国が無いの。

間。デモ隊のコール。

ジロウ おじやまですな。僕たちがここにいと。

ユリカ …そうね。

ジロウ、きびすを返して出ていく。

マサコ ジロウ君待って、待って！

マサコ、ジロウを追って退場。

マサコ(声) ジロウ君、ジロウ君聞いて！待ちなさい！

ブロンと、激しくエンジン音。車が走り去る。

マサコ(声)　ちよっと！

マサコが戻ってくる

マサコ　ユリカさんも、あんな言い方したら

ユリカ　できたら。

マサコ　：

ユリカ　もうここには集まらないで欲しい。ラジオ番組の会議とか

コンドー　言われなくても。

マサコ　：。二人とも、ねえ。今さあ、私たちまで感情的になったらね、

コンドー　違うんです。感情的なわけじゃなくて、あいや感情的ですけど、頭に來てますけど、あいや、悲しいんですけど多分。ラジオのことはあれです。ダメになりました。規則が変わって日本人には貸せなくなったって。

マサコ　：そう。

コンドー　だから今後ミーティングはありません。安心してください。でもなんなんでしょうね？日本人お断りの日本食レストランって。

マサコ　ねえだから、

コンドー　ごめんなさい。感情的で。でもこんな時に感情的にならずにいられるっていうのがちよっと私わかんない。(間)　さよなら。

マサコ　ちよっと待って

コンドー　大丈夫です。

マサコ　今一人で歩かない方がいい。

コンドー　：。

マサコ　(一旦ユリカの方を見てからコンドーに視線を戻して)　一緒にキャンプに帰りましょう。ちよっと表で待ってて。

コンドー、うなずいて退場。部屋に残ったユリカとマサコ。間。ユリカは庭の方へ目をやる。椅子から立ち上がり庭を望む窓の前に立つ。間。

ユリカ　あ。

マサコ　ん？

ユリカ　：。

マサコ　：アプリコット？

ユリカ　：。

マサコ　ギリギリセーフ。あそこ。入れといた。(部屋の隅っこを指差す)

ユリカ　もうどうでもいいけど。

マサコ　そんなこといわずにさ。(とアプリコットの並んだザルを机の上に並べていく)　せっかく

作っただし。：アプリコットには罪はないんだし…。



間。ユリカは棚の所へ行き、いくつか瓶を取ってザルの横へ持つてくる。

マサコ 手でいいわよね？

間。ユリカは素手でアプリコットをつまんで瓶に入れてゆく。マサコも同じようにする。しばらくして、

ユリカ ここ。(間) やめる。

マサコ フジサン食堂？

ユリカ (頷く)

マサコ やめてどうするの？

ユリカ …さあ…

間

マサコ いいんじゃない。ユリカさんの思うようにしたら。それがいいと思う。

ユリカ :

マサコ またやりたくなったら、是非やって。あなたの作った料理を食べて、ああ、明日も生きようって思う人がいるの。もう死んじやおうとか、生きててもしょうがないって思ってる人が、あなたの料理を食べて、生きようって思うことがあるの。そんな仕事はね。他になかなか無いから。

ユリカ 日本食レストランは他にもあるよ。

マサコ 私はあなたの作った料理が好き。日本食だろうとなんだろうと。(間) でもしばらくはこれで我慢するわ。

アプリコット干しを詰めた瓶を靴に入れる。

マサコ それじゃあね。

マサコは部屋を去る。

マサコ(声) お待たせ。

雨の中、人の出ていく足音がする。雨が強く降る。ユリカはアプリコット干しを入れた瓶を見つめている。

雨音はラジオのノイズに変わっていく。やがてチューニングがあうようにノイズは和らいで又クリアーにベトナム語の放送が聞こえてくる。

八月二十五日。前のシーンの約一週間後。

机の上にアプリコット干しの入った瓶が三つ置いてある。無人の食堂。店の奥、キッチンの方から炒め物の料理をしている音がしている。玄関の方からコンドローが無言で入ってくる。食堂を見回して、漂っている匂いを嗅ぐ。バッグを机の上に置いて、店の奥に続くのれんに顔を突っ込む。

ユリカ(声) (コンドローに気がつき) わぁ！

コンドロー (笑) ……こんにちは

ユリカ(声) (笑) ちょっともうびっくりしたあ。火傷したらどうしてくれるの？

コンドロー 保険あるからいいじゃないですか？

ユリカ(声) (笑) 信じられない…

コンドロー すごーい。美味しそー！

ユリカはコンロの火を消したようだ。

コンドロー もう匂いがたまらんすわ。

ユリカ(声) そうだろそうだろ。

コンドロー お店です分？

ユリカ(声) (笑) 違う違う。

コンドロー ですよ？こんな時間から。

ユリカ(声) お弁当。

コンドロー あ。ダイ君？サッカーまた行き始めたの？

ユリカ(声) そう…。

コンドロー あー。良かったー…。良かったですね。

ユリカ(声) うん…。

ユリカはお弁当を詰めているようだ。

ユリカ(声) まあ子供のこったからね。なんちゅーか。仲良しに戻ってしまえば、何もなかった

みたいな感じかなあ…。

コンドロー 大人より賢い。えらい。

ユリカ(声) そうかも。

コンドロー (お弁当を見ているのだろう) おお！おつきいですね。そんな食べますダイ君？

ユリカ(声) (笑) ……いや結構食べるけどあいつ。でもこれはお友達とも一緒に食べる分。

コンドロー あーなるほど。こう分け分けする感じで。

ユリカ(声) そうみたいね。で評判いいから、出汁巻きいっぱい作ってくれって。

コンドロー へー。いやでもそらそうだろうなあ。プロだもん。

ユリカ(声) まあね。…ま、なんちゅーかそれで、お友達と仲良くやれるなら。喜んで焼きます

よ出汁巻きぐらいい。…と、できた。

コンドロー わー。かわいい。ユリカさんお弁当屋さんも始めたらどうですか？

ユリカ（声） えー？めんどくさい。

コンドー めんどくさいのかよ…（笑） いやジャパニーズスタイルランチボックスで。無理かなあ。

ユリカ（声） 安くでおいしい昼ご飯いくらでもあるからなあ…

コンドー まあ…そう…ですよね…。

ユリカ（声） おし。完成。あーあ。

シンクで水を流す音。ユリカが手を洗っているようだ。コンドーは食堂の机に戻ってきて椅子に座る。机にはアプリコットの花が並べられている。その瓶の中を見ているコンドー。タオルで手を拭きながらユリカが出てくる。

ユリカ 大丈夫だった？

コンドー はい？

ユリカ 一人で歩いてここまで

コンドー ああもう全然。リトルキョートの周りにね、警察官が立ってるんです。

ユリカ へー！

コンドー ヤクザの事務所みたいですよ。知りませんでした？

ユリカ 知らなかった。

コンドー だからむしろ安全な感じですよ。

ユリカ へー（笑）

コンドー （一つの瓶を持って）これ、私のですかね？

ユリカ いやもう、誰のがどれかはわからない。だって干してたザルを取り入れたのマサコさんだから。

コンドー あそうか。

間。

コンドー マサコさん連絡無いですか？

ユリカ （首を振る。）

長い間

コンドー どこ行っちゃったんでしょうね。

ユリカ ……

長い間。玄関で物音。声がする。

ジロウ（声） こんにちは。

ユリカ、コンドー、入口の方を見る。

ユリカ どうぞ。

ジローが入ってくる。

ジロウ こんにちは。  
コンドー どうも。

ジロウも椅子に座る。

ユリカ 何かわかりました？

ジロウ (首を振る)

長い間。

ジロウ ああでも。

コンドー ん？

ジロウ 最終六つでした。

コンドー え？無尽？

ジロウ (頷く)

コンドー え！嘘マジで！？

ジロウ (頷く) …。第一ブロック、第二ブロックでも声かけてやってたんです。

コンドー はー…

ジロウ その全部で信用されてたから。もうバツて集まっちゃってお金が。だから、計六十人ぐらいですか？あ、重複してる人がいるか…

ユリカ そ、…これは、結構な大金じゃない？

ジロウ 結構ですよ。

ユリカ はー…

間。

ジロウ まあ。どこかの町で今頃、名前変えて豪遊してるんじゃないですかね？

間。

コンドー いやまあその方がいいわ私。それならその方が本当に。

ユリカ、ジロウ …

コンドー なんか、変なトラブルに巻き込まれたんじゃないかなったら、それでいい。

間

ユリカ でもあなたもなるべく早くお医者さんで検査しないと。

コンドー …

ユリカ　めまい。するんでしょう？

コンドー　（間）ま。地道に貯めます。

ユリカ　貸すよほんと。

コンドー　：

ユリカ　言ってるね。

コンドー　：。ありがとうございます。

間。鳥の声が庭から聞こえる。一同そちらを見る。鳥はほどなく飛び去る。声が聞こえなくなる。

コンドー　偽名って。「偽（にせ）の名前」って書くじゃないですか。

ユリカ　：そうね。

コンドー　なにをもつて偽なんですかね？だってもう日本はないわけだし。日本人それぞれの、その名前を正当だっていうふうには、保証する物がもうないわけでしょ？

ジロウ　：。確かに。

コンドー　：。と思ってる。私。

ジロウ、ユリカ　：：？

コンドー　私ね。本当はコンドーじゃないんです。ああ「本当」って言っちゃった：。あの：もとは私「オオドマリ」っていうんです。

ジロウ、ユリカ　：

コンドー　カオバンキャンプで、ちよつと大もめして、キャンプに居られなくなってそれで出てきたんですけど、ほら、「オオドマリ」ってあれじゃないですか。めずらしいし。だから、もうコンドーにしようと思ってる。

ジロウ、ユリカ　：

コンドー　すいません。

間。

ユリカ　いえいえ。というか謝られても。

コンドー　そうですよね。

ユリカ　ええ。ま、あの：（間）今後どっちで呼べばいいかという：

コンドー　どっちでもいいです。あれ？よくないか？

間。

コンドー　どうなんだろう？わかんないな：

間。

コンドー　わかんない。名前って何ですかね？

間。

ユリカ　コンドーさん。

コンドー　はい。

ユリカ　試食する？それ？

コンドー　ああ。

ユリカ　完成したし。(間)　ちょうど御飯あるし。

ジロウ　え？いいんですか？

ユリカ　いいよ。(と店の奥へ)

コンドー　いやったー！やっぱり梅干しには御飯ですもんね。

ユリカ(声)　「梅干し」にはね

コンドー　あ。じゃあ、ユリカさん。

ユリカ(声)　はい？

コンドー　わがまま言ってるいいですか？

ユリカ　(のれんから顔を出して)　え？何？

コンドー　もし可能ならその、タッパでもいいので弁当みたいな。

ユリカ　(笑)　…いいわよ(とまた引込む)

ジロウ　おお！ヒノマル弁当？

コンドー　そう！完成したら絶対作ろうって思ってたの。

ジロウ　いいですね、ヒノマル弁当。

コンドー　でもちょっと待って(と瓶の中のアプリコット干しを見て)　これは、デカいね(笑)

ジロウ　あー。そうですね(一つの瓶のふたを開けて)　これフタ閉まらないんじゃないですか？(笑)

コンドー　あ。(と言ってるのれんの方の奥へ消える。声)　すいません。お箸と小皿借りていいですか？

ユリカ(声)　どうぞ、えーと、それ。

コンドー(声)　ありがとう。

お箸と小皿を持ってコンドーが戻ってくる。

ジロウ　お願いします。

コンドー　いいの？

ジロウ　どうぞ。

コンドー　じゃあ…

コンドーは瓶の中のアプリコット干しを箸でつまむ。

ジロウ　おおお…

コンドー　立派。

ユリカが御飯の入ったお弁当箱を持って入ってくる。

ユリカ　どう？

ジロウ　美味しそうですよ。

ユリカ　じゃ、乗せようぜ。

ジロウ　イエイエイエイ。

コンドー　大丈夫？私責任重大じゃない？

ユリカ　大丈夫大丈夫。

コンドーがアプリコット干しをお弁当箱の中央、御飯の上に乗せる。

三人　おー！！（拍手）

ジロウ　すげー！

コンドー　ちゃんとヒノマル弁当！ねえ？

ユリカ　ほんとだ。

ジロウ　すげー、すげー！うわー…

コンドー　すごい…。

間

コンドー　ヒノマル弁当だ…。美味しそう…

間

ジロウ　すげー…。（間）スゲースゲー…

やがてコンドーとジロウは言葉を失い。涙をぼろぼろと流して泣き出す。

コンドー　：毎日作ろうと思ってたのに…：こんなの…：泣いちやうわー…：昼休み短いのに…：だめじゃん…。

コンドーとジロウは泣き笑いする。ユリカも少し笑っている。

ジロウ　すごいなあこれ…。なんかもう反射的…。梅干しの話したら涎でてくるみたいに…

三人は笑う。

コンドー　あーこれはもう毎食、涙の塩味で御飯食べられるな。

三人笑う。

ジロウ　安上がり。ずーっとアプリコット干しが無くならないっていう。

ユリカ　そういう落語があったね。

ジロウ　「始末の極意」。ですな。

ユリカ　あ、へー…。

ジロウ 落語好きで。結構見に行ったな…  
ユリカ そう…

間。

コンドー (日の丸弁当を見ながら) ここに白米がある。ここに梅干しがある。ここが日本だ。

間。

ユリカ 梅干しじゃないけどね。  
コンドー そこがまた泣ける。

三人笑う。

コンドー はあー(と大きく息をついてから立ち上がる) ありがとうございます。  
ユリカ え?

コンドー ごちそうさまでした。

ユリカ 嘘? 食べないの?

コンドー いやー。食べたらまた涙腺が収集つかんことになりそうなんです。

ユリカ 嘘ー。

コンドー ごめんなさい。あのー(間) また来ます。また来ていいですか? お客で。

ユリカ …。勿論。

コンドー ありがとうございます。じゃあこの瓶もらって行きます。(と一つの瓶を取って鞆にしま  
う)

ジロウ ちょっと本当に食べないんですか?

コンドー まかせた。

ジロウ えー。

コンドー じゃあまた。…(ジロウに) アイちゃんによろしく。

ジロウ …。(小さく頷く)

コンドー さよなら。

コンドーは去る。間。

ジロウ 本当に食べないで帰った。信じられないなあ…(苦笑)

ユリカ …。今はキャンプに居るんだ?

ジロウ そう、ですね。特別に、戻れることになって。

ユリカ こっちは部屋は? 引き払ったの?

ジロウ そうですね。

間。



ジロウ マサコさんが居なくなっちゃったから、今はその代わりの仕事とかをしています。キ  
ヤンプに居た時も結構手伝ってたから。

間。

ユリカ アイちゃん。どう？

ジロウ (間) 相変わらずですね。相変わらずです。

間

ユリカ あの。(間) もしジロウさんが望むなら。クエンさん。話がしたいって。

ジロウ いいです。(間) ごめんなさい。でももう結構です。

ユリカ ジロウさん。でも

ジロウ アイの。(間) 妹の言っていることが、…。嘘でも。(間) 作り話でも。(間) 妄想でも。

(間) それはもう関係がないんです。(間) この世界中で、妹の言っていることを信じる人間が、僕だけだからです。僕が信じなければ妹は、…。(間) 間違ってますかね？

ユリカ (首を振る) …。私の分も信じてあげて。

長い間。

ジロウ アイの様子ももう少し良くなったらここを離れようと思っています。父母の時もそうでしたけど、同じ所に居るのは辛いですから。

間。

ユリカ どこに行くか、決めてるの？

ジロウ いいえ。いける所に。でも国境を越えられるなら、タイに行ってみようと思っています。

間。

ユリカ そう。

ジロウ あー。ごめんなさい。僕もちよっと食べられないかな。

ユリカ うそー、ちよっとやめてよ…

ジロウ ごめんなさい。でももう今もここまで涙が

と、ジロウは下瞼に指をやる。二人は笑う。

ジロウ ごめんなさい本当に。これもらって行きます。ありがとうございます。(と瓶を持つ)

ユリカ いいえ。

ジロウ もしここを離れることになったら、その前にちゃんとご挨拶に来ます。

ユリカ 頼むわよ。誰かさんみたいなのやめてよ。

ジロウ (苦笑) はい。それは間違いなく。(と立ち上がり)それじゃあ。(と、立ち去る)

58

ユリカ 気をつけて。

ジロウ はい。

ジロウも玄関の方に去る。玄関の方でドタバタと足音。息子のダイの足音のようだ

ジロウ(声) Chào buổi sáng 【「おはよう」】

ダイ(声) Chào buổi sáng 【「おはよう」】

ジロウ(声) Bàn đi r ỏ lại v ề nh ề 【「さっつぷんしやん。」】

ダイ(声) Tôi đi đây 【「行ってきます。」】

タタタと玄関から駆け出していく足音。ユリカは微笑みを浮かべながらそれを聞いている。…が

ユリカ あ。

ユリカは慌てた様子で店の奥ののれんをくぐり、包んだ大きなお弁当を持って駆け出してきた玄関の方へと走り去る。

ユリカ(声) ダーイ!ダーイ!!

ややあって、ユリカの戻ってくる足音。少し息の上がったユリカが食堂に戻る。手には先ほどの弁当はない。息子に無事渡せたのだろう。椅子に座る。目の前の机の上にアプリコット干しで代用した日の丸弁当。ユリカは、アプリコット干しを箸でほぐして、少し食べる。酸っぱさに顔をしかめる。

おしまい。

ベトナム語協力／カンチン。ジュエン。ラム。

ベトナム語監修／伊藤順司